

もの・お金・資源を大切に育てる心

～意思決定に至る過程を自立につなげる授業の展開～

宮崎市立住吉南小学校 外山かおり
宮崎大学附属小学校 川崎 夕子
宮崎市立大淀中学校 甲斐みゆき
宮崎市立広瀬中学校 大岩本里子
宮崎県立日南高等学校 中山 知子
宮崎県立高鍋農業高等学校 根井 貴香

1 主題設定の理由

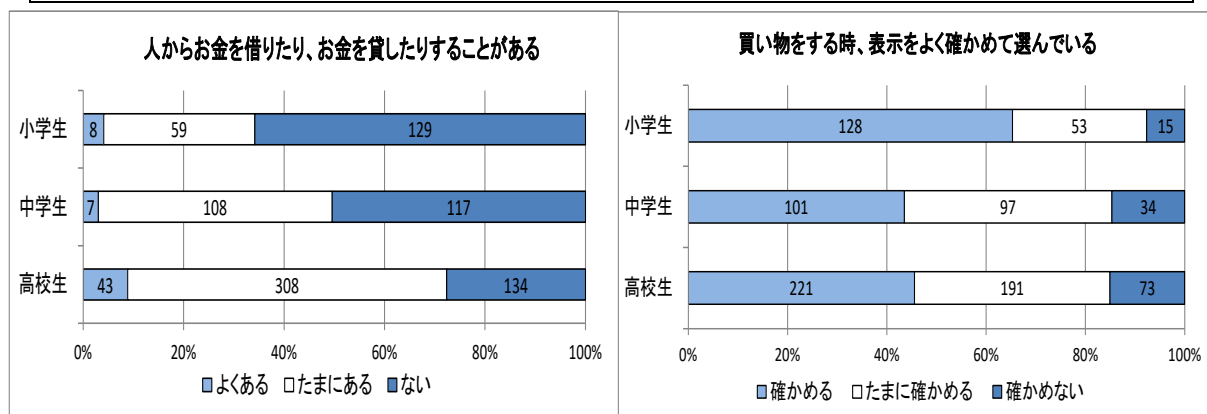
子ども達が物心ついた頃には、既にインターネットが生活の隅々に行き渡り、国内外を問わず欲しい物があれば、いつでも手に入る上に、公共交通機関や近隣の店舗においても現金を持たなくても支払いできる社会となっており、お金の重みを感じながら、ものやお金があることに対して感謝する場面が少なくなっていたと思われる。このような中、家庭科において、限りあるもの・お金・資源を大切に育てる心は、子ども達が生活の中での様々な場面で立ち止まり、自己を見つめ、環境や周りの人達に配慮した行動の仕方について考える基盤となり、自らを律しつつ、社会の一員としての責任感をもちながら生活していくことのできる豊かな人間性の育成につながるものとする。また、平成24年「消費者教育の推進に関する法律」が施行され、社会全体で消費者市民社会の形成に主体的に参画する消費者を育成することが求められているが、子ども達の周りに氾濫している膨大な商品・サービスとそれらに関する情報の中から、本当に必要なものや正しい情報を選ぶ力や、環境や周りの人に思いをはせながら生活する意識をどのように育てていくかについての研究はまだ充分ではない。

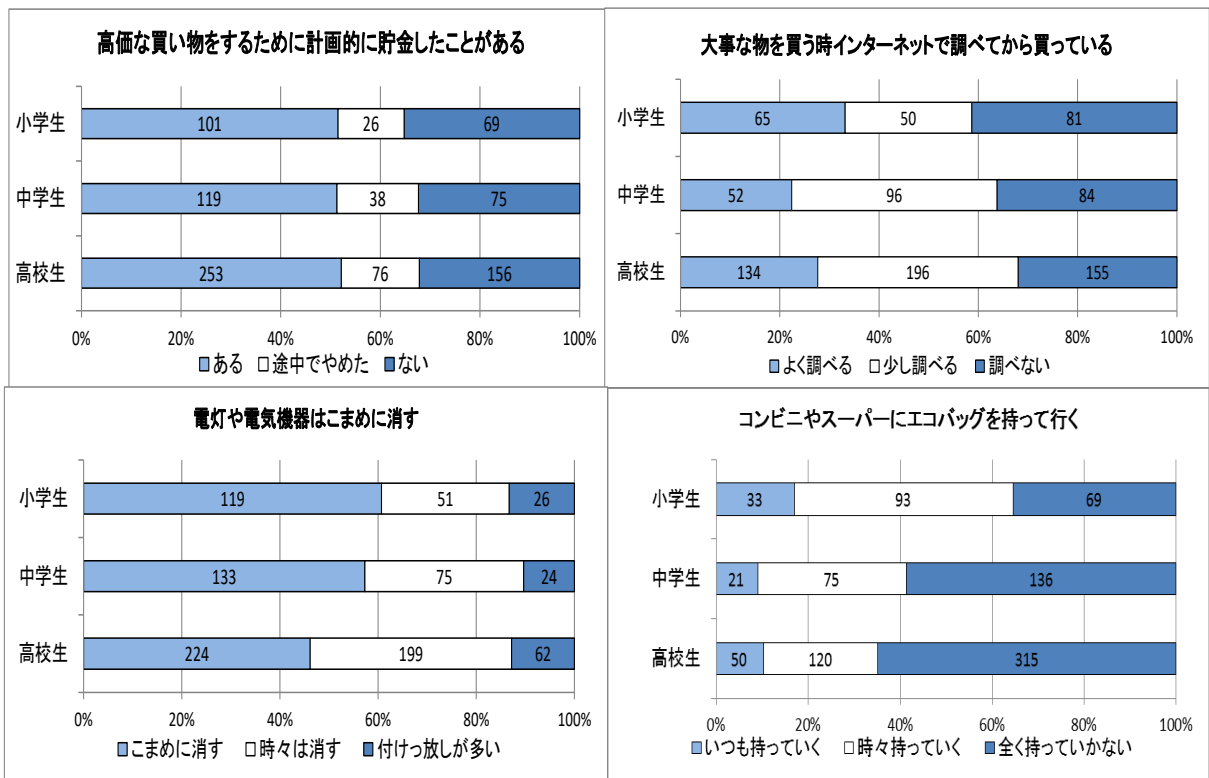
そこで、小学校、中学校、高等学校において子ども達の発達の段階に応じ、「金銭の使い方」でお金の大切さに気付かせ、「衣食住の実践」で日常生活に生かす力を身に付けさせることで、限りあるもの・お金・資源を大切に育てる心とすることとした。

2 アンケート調査から見てきた子ども達の実態

子ども達の生活の実態を把握するためアンケート調査を実施した。年齢による意識や行動の違いを明確にするため、小・中・高において同じ質問内容とした。結果は以下のとおりである。16項目の質問であったが、小・中・高において顕著な差が見られたものを抜粋してある。

調査対象: 小学校 (宮崎大学附属小学校113名・宮崎市立住吉南小学校 83名)
中学校 (宮崎市立大淀中学校 121名・宮崎市立広瀬中学校 111名)
高等学校(県立日南高校 116名・県立高鍋農業高校 140名・県立高鍋高校 229名)
総計: 913名
調査時期 平成26年5月～7月





年齢により大きな差が見られたのは、「人からお金を借りたり、お金を貸したりすることがある」の項目であり、小学生の6割以上が「ない」と回答したのに対し、高校生では7割以上が「ある」と回答しており、金銭感覚に差が見られた。また、「買い物をする時、表示をよく確かめて選んでいる」「電灯や電気機器はこまめに消す」「コンビニやスーパーにエコバックを持って行く」という慎重な消費行動や環境に配慮した生活を送っているかを問う項目において、望ましい行動をとっている割合は小学生が最も高く、中学生になるにつれて、意識が低いことが分かった。一方、「高価な買い物をするために計画的に貯金したことがある」「大事な物を買う時インターネットで調べてから買っている」の項目では、小学生から高校生までほぼ変わることにはなかった。

年齢が上がるにつれ自分の判断で扱うことのできる金額が大きくなるからか、金銭の扱いに対して慎重さがなくなっており、環境に配慮した行動も減っているという残念な結果となった。また、予想以上に小学生からインターネットを活用した商品購入を行っていることも分かった。

3 研究の概要

アンケートの結果を踏まえ、「もの・お金・資源を大切に育てる心」を育てるためには、お金の大切さをしっかりと認識させた上で、日常生活において実践する力を育てることが必要であると考え、研究内容を「金銭の使い方」と「衣食住における実践」の2本柱とし、研究メンバー6名を小学校1名、中学校1名、高等学校1名の3名グループに分け、小中高の関連性を意識しながら授業実践を行うこととした。

テーマ1 (金銭の使い方)		
学校名	研究者名	題材
宮崎大学附属小学校	川崎 夕子	物や金銭の使い方を考えよう
宮崎市立大淀中学校	甲斐みゆき	金銭の使い方や商品の購入について考えよう
県立日南高等学校	中山 知子	消費生活と生涯を見通した経済の計画
テーマ2 (衣食住における実践)		
学校名	研究者名	題材
宮崎市立住吉南小学校	外山かおり	くふうしよう楽しい食事
宮崎市立広瀬中学校	大岩本里子	自分らしく着る「日常着の活用」
県立高鍋農業高等学校	根井 貴香	家族の生活と住空間を考えよう

4 実践事例

【テーマ1 金銭の使い方 小学校】

宮崎大学附属小学校 川崎夕子

1 題材名 物や金銭の使い方を考えよう

2 題材設定の理由

(1) 題材観及び指導観

本題材は、身近な生活における消費の学習を通して、金銭の使い方への関心を高め、物の選択や購入に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、主体的に生活を工夫できる消費者としての素地を養うことをねらいとしている。物や金銭を上手に使うためには、計画的な使い方を工夫したり、適切に購入したりすることが大切である。自分のこれまでの生活を見直したり、どのような買い方がよいかを物の品質や価格などの情報をもとに考えたりすることにより、身近な消費生活における自分の問題点に気づき、限りある物や金銭を工夫して活用する力を身に付けることができる。このような内容を学習することは、物や金銭への関心を高め、その大切さに気付くとともに、身近な消費生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を育てる上で意義深い。

(2) 児童観

子どもは、前題材の「作っておいしく食べよう」では、実習に必要な材料とお金の必要性に気付くことができた。また、調理実習の材料を購入する際に自分なりの視点をもって物を選ぶことができた子どももいた。家庭科学習においては、生活経験やこれまでの学習で学んだことを基に話し合う活動を行うことで、知識及び技能を身に付けてきている。しかし、自分と友達的生活経験を比較する中で、自分の生活を見つめ直したり、今まで気付かなかった問題を自分の生活と結び付けて捉えたりすることができたとは言えない。また、小集団での話し合いでは、分かったことを伝えるだけで、他者の多様な考えを自分の考えと比較して考えを深めたり、それらのことを全体で練り上げたりするまでには至っておらず、今後の指導によるところが大きい。

(3) 題材の指導計画

段階	生み出す	日常の買物における物の選び方や買い方、購入後の使用状況等の問題点を話し合う活動を設定することで、これまでの自分の生活を見直し、計画的に使うことを考え購入する必要性を感じ、題材のゴールの姿をイメージできるようにする。
	挑む	子どもが共通体験している問題場面を提示し、欲しい物がある際に購入するかどうかの判断基準や購入の際のポイントについて話し合う場面を設定することで、購入する目的や使い方、選び方、買い方について考えを広げ、上手な買い方について主体的に気付くことができるようにする。
	生かす	買物の実践報告を写真や学習プリントから振り返らせることで、買物のポイントを再認識できるようにする。また、今後の買物で生かしたいことを伝え合う場を設定することで、実践的な態度の育成につなげることができるようにする。

3 評価規準と指導計画 (5時間)

階	主な学習活動及び学習内容	教師のかかわり	具体的な評価規準
生み出す (1)	1 自分の消費生活について振り返り、学習課題を設定する。 <1時間> ○ 金銭の大切さと必要性について ○ 購入した物について 買物達人をめざそう。	○ 身の回りの不要な物を持ち寄せ、それらの入手方法を問うことで、金銭の大切さと必要性について実感できるようにする。 ○ 持ち寄った不要な物の活用頻度や、使い方について話し合わせることで、問題点に気づき、計画的に使うことを考え購入することに対する意識をもつことができるようにする。	○ 自分の生活から物や金銭の大切さに気づき、その使い方に関心をもっている。 【家庭生活への関心・意欲・態度】
挑む (3)	2 物や金銭の計画的な使い方について話し合う。 <1時間> ○ 物の使い方 ○ 目的に合った無駄のない買い方	○ 欲しい物がある時どうするかについて話し合う場面を設定し、いろいろな選択肢があることに気付かせることで、目的に合った計画的な買物ができるようにする。	○ 物や金銭の計画的な使い方を考えたり、工夫したりしている。 【生活を創意工夫する能力】

本時
1/3

	<p>3 適切に購入するための計画について話し合う。 <2時間></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画の立て方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算や情報収集 ○ 品物の選び方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や予算 ・ 分量や品質 ・ JIS マークや JAS マーク等の意味や見方 ・ 食品の賞味期限や消費期限 ○ 購入と支払い <ul style="list-style-type: none"> ・ 現金 カード ・ レシート ○ 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広告やチラシから情報を収集する場を設定することで、必要な情報を整理して買物メモを作成し、買物の実践につなげることができるようにする。 ○ 商品に付いているマークの種類を問うことで、食品や文房具、衣服等に分類されそのマークの意味や見方について理解できるようにする。 ○ 購入する店や現金以外の購入方法に着目させることで、目的や状況に応じて適切に購入するポイントに気付くことができるようにする。 ○ 購入前から購入後までに必要なことを話し合う場を設定することで、計画的な買物が大切であることを実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 購入しようとする物の品質や価格、分量等の情報を集め、整理している。【生活の技能】
	<p>【時間外】 ○ 校外学習のお菓子を購入する。</p>		
生 か す (1)	<p>4 買物の実践について振り返り、計画的な買物のよさについてまとめる。 <1時間></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 買物の実践を報告し活動をふりかえらせることで、計画的な買物のよさを実感し買物のポイントを生活に生かそうという意欲をもつことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的や品質を考えた物の選び方や適切な買い方について理解している。【生活における知識・理解】 ○ 学習したことを生活に生かそうとしている。【家庭生活への関心・意欲・態度】

4 本時の目標 欲しい物の必要性と、購入するかどうかの判断基準について考え、工夫することができる。

5 本時の指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題の提示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊学習のバッグが必要になったときの場面 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>すぐ買うと決めるのは、早すぎる。</p> </div> ○ 本時の学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ほしい物があるときの「買う・買わない」は、どのように判断すればよいのだろう。</p> </div> <p>2 学習の進め方について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 話合いの視点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 欲しい物があるときの「買う・買わない」の判断基準について <p>3 欲しい物があるときの「買う・買わない」の判断基準について全体や小集団で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 必要な場合について <ul style="list-style-type: none"> ・ 買わなくてもよい方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>代用品を探す・借りる・おさがり・製作する等</p> </div> <p>4 話し合った結果を発表し、分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 欲しい物があるときの「買う・買わない」の判断基準 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「宿泊学習にバッグが必要だが、どうするか。」という問題場面を提示することで、本時のねらいに沿った学習問題を設定することができるようにする。 ○ 宿泊学習という共通体験を取り上げることで、生活経験を基に考え、主体的に問題解決し実践につなげることができるようにする。 ○ 欲しい物がある時の購入するかどうかの判断基準について話し合わせることで、物や金銭の計画的な使い方を考えることができるようにする。 ○ いろいろな判断基準をフローチャートで板書しながら話し合わせることで、問題解決の方法を視覚的に明確に理解することができるようにする。 ○ 「家に代用品があれば買う必要はない。」などの判断した理由を発言させることで、買わなくてもよい方法について気付くことができるようにする。 ○ 購入するかどうかの判断基準を生かした購入は無駄な買物ではないことを説明することで、金銭の計画的な使い方の大切さを実感することができるようにする。

- ① 必要かどうか考える。
- ② 必要な場合は買わなくてよい方法を考える。
- ③ その方法がだめだったら買う。

買わなくてよい方法が全部だめだったら…。

5 本時学習をふりかえる。

- 自分の欲しい物の必要性と購入の判断

・ 妖怪ウォッチのゲームはもっていないし代用品もないので買う。
 ・ 自転車が欲しいけれど、今もっているのがまだ乗れるので、買わない。

- ◎ 「やっぱり、新しい物を買った方がいいのでは。」と問い、話し合わせることで、買わなくてもよい方法のよさや購入後の使い方の工夫について考えを深めることができるようにする。
- 自分の欲しい物を想起させ、その必要性と購入の判断を考えさせることで、学んだことのよさを実感し実践することができるようにする。
- ◎ 「もっていないからゲームが必要だ」というような考え等を取り上げ全体に問うことで、それが本当に必要な物であるのかということを考え判断できるようにする。

6 授業実践

具体的な生活経験と関連付けた課題設定の工夫

導入で子どもに見せた映像の会話
 先生：宿泊学習には全部の荷物が入るバッグを持って行きます。
 子ども：そうか、バッグがあるのか。よし買おう！

「宿泊学習にバッグが必要だが、どうするか」という共通体験を問題場面として提示することで、生活経験を基に考え、主体的に問題解決し実践につなげることができるようにした。

「よし、買おう。」とすぐ言ったな。買うと決めるのが早い。



映像の子どもは、何と言いましたか？それをどう思いますか？



生活経験を基にした根拠をもった話し合い



ぼくは、家の人に聞いたし、探したりします。

「家に代用品があれば買う必要はない。」などの判断した理由を発言させることで、買わなくてもよい方法について気付くことができた。しかし、必要かどうかの部分をもっと話し合わせる事が大切ではなかったかという課題も見られた。

バッグを作っても良かったら、買わなくていいよ。

縫い方を習ったから、自分でも作れるよ。



新たな気づきを生み出すような揺さぶりの発問

でもやっぱり、新しい物が欲しいよね。みなさんはそう思わない？

じゃあ、本返し縫いか・・・ミシンがいいね。



確かに新しいバッグは欲しいけど、もったいないよね。

「やっぱり、新しい物を買った方がいいのでは。」と問い、話し合わせることで、買わなくてもよい方法のよさや購入後の使い方の工夫について考えを深めていた。

買った後も使うならいいのでは？

学んだことを今の自分の生活に生かす

学んだことを生かすために、今、自分が欲しい物は「買うか・買わないか」を理由を言わせて話し合わせた。その中で、持っていないゲームだから買うという考えを取り上げ、欲しい物と本当に必要な物とはどういうものかについても考えを深めることができた。この場面は学びの実感を伴う学習の場面であるので、もっと時間を取ってしっかり全体で話し合わせる必要があったのではないかと課題も残った。

8 成果 (○) と課題 (●)

- 子どもの生活の中で見られた場面や共通の問題場面を映像で提示したことで、自分の経験を基に考え、「自分だったら買わないである物を使おう」などと、主体的によりよい生活のための方法を考えることができた。
- 授業で学んだ物や金銭を大切にする方法を実践できる「校外学習の買い物」という共通の場を意図的に設定し、その報告会をさせることで、新たな課題に気付いたり自分が学んだ方法のよさを実感したりすることができた。
- 子どもの実態を把握し、それにそった金銭教育を行う必要がある。

【テーマ1 金銭の使い方 中学校】

宮崎市立大淀中学校 甲斐みゆき

1 題材名 家庭生活と消費 「金銭の使い方や商品の購入について考えよう」

2 題材設定の理由

(1) 題材観

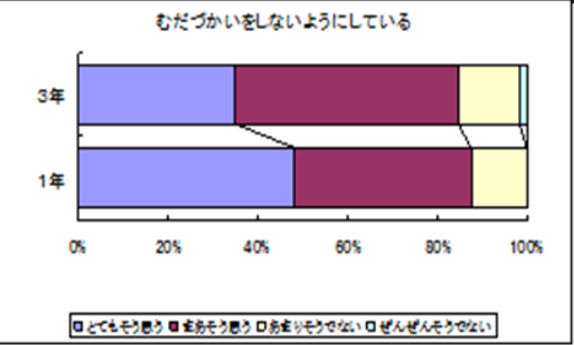
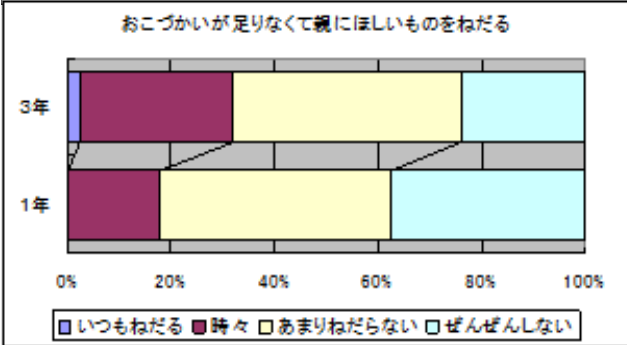
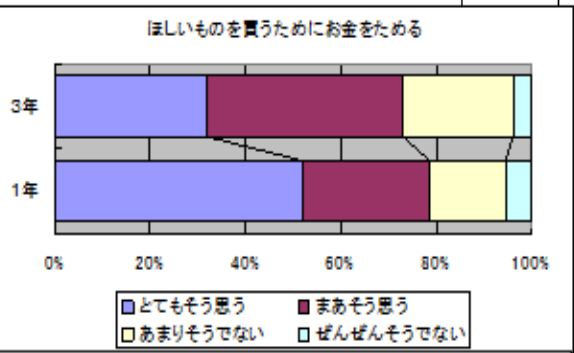
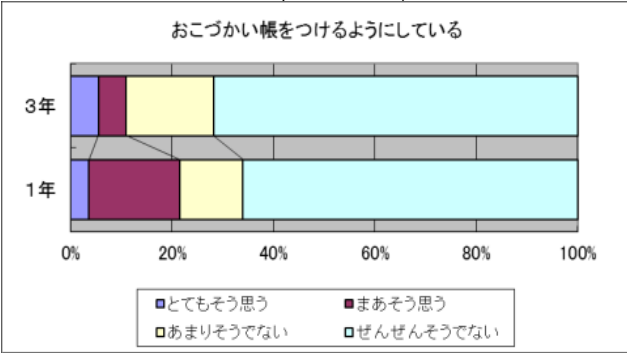
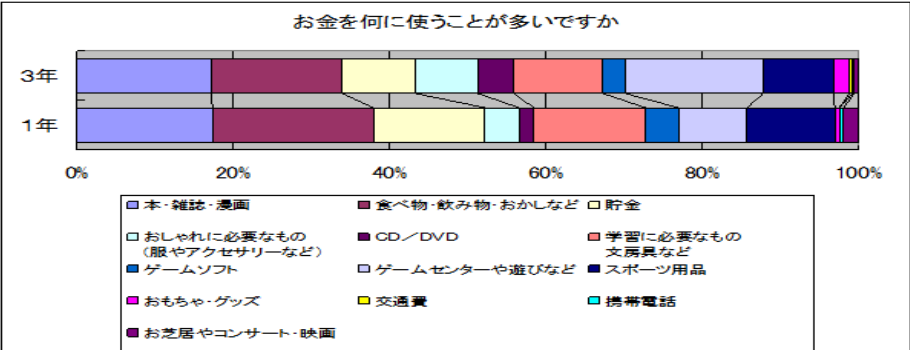
中学生は様々な物資やサービスに囲まれ便利な生活をしており、インターネットや携帯電話などの情報通信サービスが身近に存在するため、自分自身で購入するかしないかの決断を迫られる場面がますます増加することが予想される。しかし、保護者が消費者教育の重要性を認識していないことも多いため、買い物について大人と話し合っ、お金の使い方を考えたり、「おこづかい帳」をつけるなどして計画的にお金を使う習慣を養うといったことは少ない。中学生になると友だちに合わせてお金を使うことが多くなっていくが、お金を使う場面での適切な意思決定ができる能力が十分に身に付いていない。また、現代の日本社会の商品の豊かさは、良くも悪くも子ども達の生活を変えてきており、物が壊れたら修理するよりも、新しい物を買えばよいといった使い捨てに抵抗が少なく、捨てられた物が限りある「もの・お金・資源」に影響を与えていることには気が付きにくい。生活に必要なものとは何か、それらはどこから来て、どのように手元に届き、どのくらいの量をどのくらいの期間で使うのか、これらは生活全体をどうしたいのかに関わってくる。しかし、中学生はそのことを自覚していないことが多く、消費行動においては受け身になりがちである。こうした現状をふまえて、中学生が一人の消費者として自立するために本題材は大変意義深い。

(2) 生徒の実態

指導する1学年(90名)、3学年全生徒(200名)に「お金」に関するアンケートを実施した。【資料】

「お金を何に使うことが多いか」では、「本・漫画・雑誌」「食べ物・飲み物」「文房具」「遊び・ゲーム」などが多く、お金の使い道は、生徒自身の楽しみのためであることがわかった。本来は不要であるかもしれないが購入しているものも多い。「おこづかいの金額が決まっている」生徒は4割以下で、決まった金額をもらっていない。不定期でもらう場合や、必要に応じて親に買ってもらうことが多く、自分で考えてお金を使う機会は少ない。そのため、おこづかい帳をつける必要性を感じていない。学年があがると、学校で使う文房具や習い事、部活動、趣味のためのお金も増えるため、家庭の家計とは無関係に「おこづかいが足りなくて親にほしいものをねだる」生徒が増えてくる。その反面、「むだづかいをしないようにしている」「ほしい物を買うためにお金をためる」と、目的のためにお金を使いたいと節約をする生徒もいる。その場の状況や情報に影響され、意図と行動がずれ、衝動買いし失敗した経験をもつ生徒も多い。新しいものをほしがるとも、生活に必要なものの計画的な購入や、自分の買い物の仕方を振り返り、次の購入に活かすことなど実際の消費生活とのかかわりを考えるまでには至っていない。

【資料1】
「お金」に関する調査結果
調査対象
1 学年生徒 90 名
3 学年生徒 200 名



(3) 指導観

生徒の「お金」に関する価値観は様々であり、使う金額も家庭によって異なるため、授業において問題意識をもたせにくい。お金に関する実態調査の結果や資料から、消費行動を振り返り、「お金の持ち主」を読むことで「お金」に関して共通の価値観をもたせ、一人の消費者として物資やサービスを購入し利用するため正しい金銭感覚をもたせたい。資料に登場する人物の消費行動を分析することを通して、自分の消費行動と重ねながら、お金の使い方を見直し具体策を考えさせる。班で話し合う活動を取り入れ、お金の使い方の改善策を考え、ベストな方法を探っていく中で、お金の使い方について、「大切なお金」「家族の一員」「自立した生活」の側面を意識させ、しっかり意思決定ができるようにしたい。本時の授業を土台として、自分の消費行動に関心を持ち、生活に必要な金銭と上手に付き合い、「持続可能な社会」を目指す自立した一人の消費者として適切な消費行動をとることができるようにしたい。

3 題材の指導計画（4時間）と評価規準

小題材	時間	評価規準			
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解
生活に必要な「金銭」の使い方と消費生活のしくみ	1 本時	自分の生活や消費行動を振り返り、一人の消費者として金銭をどのように使えばよいか関心を持ち、金銭の使い方について具体的な方法を考えようとしている。			

生活に必要な「もの」の選択と購入の流れ	1	情報を収集・整理し、商品を選ぶ視点を考えながら、適切に選択しようとしている。	収集・整理した情報を活用し、商品を選択購入するために考えたり工夫したりしている。	生活に必要な「もの」について情報を収集し、整理することができる。	
販売方法と支払方法、契約の意味	1	身近な販売方法に関心を持ち、その利点と問題点について考えようとしている。			中学生に関わりの深い販売方法の利点と問題点について理解している。
消費者トラブルの解決	1				消費者の基本的な権利と消費者保護基本法の趣旨を理解している。

4 本時の学習指導

(1) 本時の題材 生活に必要な「金銭」の使い方と消費生活のしくみ

(2) 本時の目標 消費生活のしくみを理解し、自分の消費行動を振り返り、一人の消費者として「お金」をどのように使っていけばよいかを考えることができる。

(3) 学習指導過程

過程	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	評価	資料等
導	1 資料から学習の目標を知る。 「今、一番ほしいものは何ですか？・ほしいものを買うにはどうしますか？」	○ 漫画を読み、ほしい物がある時にどうするか自分に置き換えて考えさせる。		漫画 お金に関する実態調査結果
	(大切な) お金を (家族の一員として) どのように使えばよいだろうか			
入	2 アンケート結果を見て、自分の消費行動を振り返る。 「お金を何に使うことが多いですか？」	○ アンケート結果から、金銭をどのように使っているか自分の消費行動を確認させる。 ○ ほとんどの生徒が「おこづかい」を「ほしいもの」に自由に使っている現状を知らせる。		ワークシート
	3 資料1を読み、「お金」の使い方について考える。 ①「あなたのお金の使い方はどちらのタイプに近い？」 ②「ユミエとタケシは今後どのようになっているのでしょうか？」 ③「2人の違いはどこから生じたのでしょうか？」	○ 自分のお金の使い方はユミエとタケシどちらに近いかを考えさせることで、自分の消費行動を客観的に見つめさせる。 ○ それぞれのタイプは今後どのような大人になるのか想像させることで問題意識をもたせる。 ○ 2人の違いはどこから生じたのかを考えさせ、生活のパターンとの関連があることに気付かせる。	資料やアンケート結果から自分の消費行動について振り返り、お金の使い方について考える(関心・意欲・態度)	お金に関する作文
4 資料2「おかねの作文」を読み、「お金」について考える。 「()の中にどんな言葉が入るか考えながら読みましょう。」	○ 作文を読み、資料の空欄に入れた言葉について班内で見せ合うことで、「お金」に関する共通の価値観をもたせる。 ○ 「家の人が働いて稼いだお金」は「自分のお金」ではなく、「稼いだ人の気持ちがこもっている」大切なお金であることを確認させる。 ○ 家族はいろいろなものに「お金」を支払い生活していることから「家族の一員」として「お金」を使うことも確認する。			

